

2019年4月21日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「復活の主と共に」

聖書：ヨハネ福音書3：16～21

イースターとは、イエス・キリストが十字架にかけられ、死んで墓に葬られ、そして三日目によみがえったこと。このメッセージには、「死の克服」がある。死は決して終わりではない、「死」というものに囚われてはいけない、絶望と思える死を超えて、復活という希望があるということ。もちろん“死”を目の前にすれば、どんな人でもたじろぐもの。イエスでさえ十字架を目の前にして「この杯を(十字架を)私から取り除けてください」と神に願ったほどである。“死”にたじろぐのは当然のこと。されど、キリストの復活には、死を超えて希望があることを覚えたい。

もう一つ、「罪からの解放」ということ。私たちの罪のゆえにキリストは十字架へと向われた。私の罪のゆえにイエスは死なれた。そして私たちを罪から解放してくださった。さらに言えば、“死の克服”とか、“罪の解放”ということに留まらず、今も生きておられるキリスト、この世の闇の中へと歩み出して行くキリスト、復活されたキリストと共に、この世の荒波に漕ぎ出して行く。その意味もまた伴う。私たちの教会もそのことを覚え、世の荒波に向き合うことを大切にしたい。

ヨハネ福音書3章 16 節の前にイエスとニコデモの物語がある。ニコデモは、ユダヤ人の議員で、とても偉い人のよう。その彼が“ある夜”イエスを尋ねてきた。彼はイエスの歩みを知らされ「どうしたらあなたのように、神と一緒に居てくださる生活が出来るのか」という質問をしている。ニコデモは律法を重んじ、良い働きもしてきた者。でも彼は、神と一緒に居てくださる生活を感じきれないでいた。そこでイエスに尋ねた。イエスはその質問に対し「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と答える。ニコデモが期待していた答えは、もっと具体的な答えだった。何をしたら神と共に歩む生活ができ、神の国を見ることが出来るのかということ。その考えには、自分の努力、修行、鍛錬によって“救われる”という考えがある。そのことはキリスト教会にも多少なりともあるように思う。人間の努力によって、私たちの救いが成り立つかのように思うてしまうというのはあるのではないか。しかし聖書は、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」という。私たちの信仰は、神の愛に気づかされることから始まる。そして、私たちは「復活の主と共に」歩むのである。イエス・キリストの歩みを覚え、聖書に記されている平和のメッセージに押し出されて、復活の主と共に生きるのである。復活の主は、あなたと共に歩むこと、あなたと共に生きることを願っておられるのである。

ご一緒に主の復活をお祝い致しましょう。(神谷)